JA共済

令和８年11月９日（No.08-25）

News Release

ＪＡ共済連、ＩＦＡＤ初の「クライメート・アダプテーション・ボンド」に投資
～途上国の農村地域や小規模農家の気候変動対策を支援～

ＪＡ共済連（全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長 村山美彦）は、国際農業開発基金（以下、ＩＦＡＤ）が初めて発行する「クライメート・アダプテーション・ボンド（気候適応支援債）」70百万米ドル（約111億円）の全額に投資しましたので、お知らせいたします。本債券は、世界で初めて発行される農村地域を対象とする気候適応支援債です。

本債券で調達された資金は、途上国の農村地域における持続可能な開発プロジェクトや、小規模農家が気候変動に対応するための取組みなどに活用される予定です。

■　投資の背景

ＪＡ共済連では、運用収益の確保と社会課題の解決への貢献の両立を目指し、責任投資に取り組んでいます。本債券は、気候変動の影響を受けやすい小規模農家や農村地域を支援するものであり、農業分野の課題解決に貢献する取組みとして投資を実施しました。

■　本債券の概要

本債券は、ＩＦＡＤ※1のサステナブル・ディベロップメント・ファイナンス・フレームワーク※2に基づいて発行された債券です。また、本債券の発行は、農業分野の気候適応に向けた取組みの一環として、ＣＯＰ31（国連気候変動枠組条約第31回締約国会議）※3の場で発信される予定です。

債　　券　　名	クライメート・アダプテーション・ボンド（気候適応支援債）
発　　行　　体	国際農業開発基金（ＩＦＡＤ）
発　　行　　額	70百万米ドル（約111億円）
本 会 投 資 額	70百万米ドル（約111億円）
償　還　期　間	10年

※１　ＩＦＡＤは、途上国の農村地域における貧困削減や持続可能な農業の発展に取り組む国連の専門機関です。

※２　当該フレームワークの詳細については以下リンクをご確認ください。
https://www.ifad.org/documents/d/new-ifad.org/ifad-sustainable-development-finance-framework

※３　気候変動のＣＯＰ（締約国会議）とは、国連気候変動枠組条約（ＵＮＦＣＣＣ）の締約国が年に一回集まる会議であり、各国政府が気候変動に対応するための行動について交渉し、合意を形成する場です。

＜ 貢献が想定される主なＳＤＧｓ目標 ＞



■　コメント

＜　ＩＦＡＤ　＞

ＣＯＰ31 において国際社会が一堂に会する中、特に気候変動の最前線に立つ小規模農家や農村コミュニティに対する気候適応投資を加速させることは世界的な優先課題でなくてはなりません。本債券の発行は、農村コミュニティを対象とする世界初のグローバルな気候適応支援債として重要な節目となるものであり、革新的な資金調達手法が適応資金ギャップの橋渡しとなり、脆弱な人々に具体的な恩恵をもたらし得ることを示しています。より強靭な食料安全保障の確保と持続可能な未来の実現に向けた、ＪＡ共済連のリーダーシップとパートナーシップに深く感謝申しあげます。私たちが協力することで、気候変動の影響を最も強く受ける人々が適応し成長するために必要な資源を確保し、持続可能なグローバル成長の実現を支援していきます。

＜　ＪＡ共済連　＞

ＩＦＡＤは、1977 年の創設以来、世界で最も経済的に困窮する国々における農業、気候適応、農村開発のための支援を実施してきました。今般、農業分野に特化した唯一の国際金融機関であり国連専門機関であるＩＦＡＤとの有意義な対話を通じて、その取組みに対する真摯な姿勢を確認し、小規模農家の気候適応に関わるプロジェクトを含む、途上国の農村地域における持続可能な開発プロジェクトを支援する本債券に投資を行いました。

ＪＡ共済連は、引き続き農業と地域社会の持続的発展に貢献するとともに、地域社会を構成する一員としての社会的役割を果たしていくため、資金運用における責任投資を進めてまいります。

以　上